

新規事業採択時評価結果（平成19年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：木村 昌司

事業の概要

事業名	地域高規格道路「美作岡山道路」 一般国道374号 湯郷勝央道路（延伸）	事業区分	一般国道	事業主体	岡山県
起終点	自：岡山県勝田郡勝央町黒土 至：岡山県勝田郡勝央町黒土	延長	1.1 km		
事業概要	<p>地域高規格道路「美作岡山道路」は、瀬戸町から勝央町に至る延長約40kmの道路であり、中国縦貫自動車道・山陽自動車道・中国横断自動車道岡山米子線と一体となって、県内を循環する高速道路ネットワークを形成するとともに、美作圏域と岡山圏域との交流を促進し、県東部地域の発展、活性化に大きく寄与する道路である。</p> <p>湯郷勝央道路（延伸）は、地域高規格道路「美作岡山道路」の一部を構成する一般国道374号のバイパスで、沿線の慢性的な交通混雑の解消及び交通の安全確保を目的とした延長1.1kmの道路である。</p>				
事業の目的、必要性	<p>・県内を循環する高速道路ネットワークを形成し、均衡ある県土の発展が図れる。</p> <p>・岡山圏域と美作圏域との交流を促進し、県東部地域の発展、活性化が図れる。</p> <p>美作ICから岡山ICまでの所要時間が、約27分短縮（全線開通時）</p> <p>・（国）179号、374号等の渋滞緩和や交通安全に寄与する。</p> <p>・災害や事故等の緊急時の代替路線の確保が図れる。</p> <p>第1次緊急輸送道路（国）179号、374号</p>				
全体事業費	31億円	計画交通量	3,300台/日（H42）		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見
沿道市町の首長及び議会議員で構成する「美作岡山道路整備促進期成会」など複数の団体から要望を受けている。

事業採択の前提条件
費用対便益：便益が費用を上回っている
手続きの完了：地域高規格道路として計画路線に指定（平成6年12月）
調査区間指定（平成7年8月23日）
環境影響評価完了（平成18年3月22日）

事業評価結果

費用対便益	B/C	2.0	総費用：23億円 （事業費：22億円 維持管理費：1億円）	総便益：45億円 （走行時間短縮便益：34億円 走行費用減少便益：6億円 交通事故減少便益：5億円）	基準年 平成18年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C= 1.73（交通量 -10%）	B/C= 2.17（交通量 +10%）		
		事業費変動	B/C= 2.18（事業費 -10%）	B/C= 1.78（事業費 +10%）		
	事業期間変動	B/C= 2.12（事業期間 -20%）	B/C= 1.80（事業期間 +20%）			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策		（国）179号、374号（主）美作奈義線の渋滞緩和が図られる。 （国）179号 勝央町黒土地内（H11t/N o.1064）岡山県での渋滞損失時間上位2割に該当 渋滞損失時間 18.9万人時間/年（平成16年度） 津山IC～美作IC間に並行する（国）179号、（主）美作奈義線の渋滞損失時間が約1割削減 18.9万人時間/年（H42整備なし） 17.7万人時間/年（H42整備あり）		
		事故対策		（国）179号、374号（主）美作奈義線における死傷事故率の軽減が図られる。 年間死傷事故率 235件/億台キロ （岡山県内平均：120件/億台キロの約2倍）		
	歩行空間	-	注目すべき影響は無い。			
	社会全体への影響	住民生活		第三次医療施設である津山中央病院と美作市の利便性向上が図られる。（津山中央病院～湯郷温泉地区（25分 13分））		
		地域経済		・関西方面と美作岡山道路沿線区域との連絡性向上による農業、観光業等産業の活性化が図られる。 ・県北部の主要な観光地（蒜山高原、湯原温泉など）への観光ルートでの時間短縮（湯郷温泉地区から60分でアクセス可能）により、集客力・滞在時間増が期待される。		
災害			第一次緊急輸送道路（（国）179号、374号）に代わる代替路線が形成される。			
環境			大型車の転換により一般国道179号、県道美作奈義線の騒音・振動・大気汚染物質の低減化が図られる。 Co2排出削減量：約370 t-CO2/年（H42）			
	地域社会		美作圏域から岡山圏域へのアクセス性を高めることから利便性が向上する。美作市から岡山市までの所要時間が約30分短縮する。			
事業実施環境			「岡山夢づくり道路プラン」において地域間交流を促進する事業として位置づけられている事業である。			

採択の理由

費用対便益比が2.0であり、便益が費用を上回っていることから、事業採択の前提条件を確認。また、渋滞対策や、第三次医療施設へのアクセス向上、地域経済への支援等、事業の効果が高いと判断される。以上より、本事業を採択した。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。